

近年アジアへの進出がめざましい、広島発の新世代インストゥルメンタル・ユニット「大瀬戸千嶋」 “サクソ&エレクトーン”という独自のスタイルで創り出す、変幻自在なサウンドが魅力です。

今年4月から広島テレビ「テレビ派」に水曜レギュラーコメンテーターに就任
「大瀬戸千嶋」のサクソ奏者・大瀬戸 嵩さんに伺いました。

Q1 大瀬戸千嶋のお二人が考える、インストゥルメンタル・ユニットならではの魅力とは？

A1 色々魅力はあると思いますが、インストゥルメンタル（略インスト）の音楽は、歌詞がないので聴いていただけるお客様が、それぞれの感じ方で音楽を楽しめることが魅力の一つだと思います。ユニットとして役割が違うため、どうしてもサクソがメロディーを吹くことが多いですが、イメージを膨らますためにはエレクトーンの支えが必要で、そのアンサンブルが出来てこそ自分達らしいインスト音楽になるのかなと考えています。

もともとエレクトーンのサウンドに負けないよう、フロント楽器として音が高く目立つソプラノサクソを吹くことにしました。音楽をさせている方は珍しくないかもしれませんが、我々は結成当時演奏していた場所の近所に住んでいる方々に聞いていただく音楽活動がスタートでしたので、ソプラノを吹くとお客様から『そんな楽器があるんじゃない！』『それもサクソなの？』と多く声をかけていただきました。もちろんアルトやテナーを吹く曲もありますが、まずは“興味を持ってもらう！”これが原点にあります。

サクソとエレクトーンのユニットは珍しいですし、インストならではの様々なジャンルの音楽も楽しんでいただけるのではと思っています。

Q2 サクソというアコースティック楽器とエレクトーンという電子楽器のコンビネーションで、苦労されるどころ、または良いところはありますか？

A2 音楽的にはステージで音のバランスを作ることに苦労しました。やはりユニットとしてこの2つの楽器の良さをどう見せられるかは、今でも色々考えます。あと、サクソはある意味“変わらない楽器”ですが、エレクトーンはこの13年間でもかなり進化するので、その度に同じ曲でもアレンジを作り直すなど電子楽器ならではのところはあります。しかし、この組み合わせじゃないと大瀬戸千嶋の音楽を表現出来ないこともありますし、どの会場に行っても2人で同じクオリティを毎回出せることは良いところかな！と思います。コンセントがなければ無理なんです（笑）

Q3 「広島の音楽シーンを世界に伝える先駆者になりたい」という大瀬戸さん。近年では、中国でのライブツアーや、恵まれないタイの子供たちに音楽を届けるボランティア活動など、国際的にも活動されていますね。大瀬戸千嶋は広島から来た音楽家として、どのようにして広島の音楽シーンを世界に伝えていますか？

A3 これまでに演奏してきた海外で『どこから来たの？』と言われた時に『広島』と答えるとだいたい外国人の方が原爆のことを知っています。大変だったな！今はどんな街になってる？と聞かれ、故郷広島の話をする。日本で演奏している時とまた違う感情がそこにはあります。音楽家として演奏するからこそ行ける国や街、会える人がいて、そこで“元気な広島から音楽を届けに来ました”ということがこれからのPeaceメッセージにもなるのかと思っています。

近年ではタイの奥地や中国にも行きますが、広島人が来たのは初めて！など、言われることが多く、様々な場所で「広島音楽＝大瀬戸千嶋」と広がって行けば嬉しいです。



Q4 広島や東広島では吹奏楽が盛んですが、吹奏楽の学生さんや、ミュージシャンを志す若い世代に伝えたいことがありましたら教えてください。

A4 自分も吹奏楽部でしたが、仲間を大切に、目標に向かいひたすら練習あるのみです。ミュージシャンを志す若い皆様には、ステージ、本番にたくさん出ることをお勧めします。友達や親に聞いてもらうことも立派なステージ。

人からいただく拍手で成長できると思っています。共に音楽を楽しみましょう。

Q5 くららへご来場のお客様へメッセージをお願いいたします。

A5 初めてくらのステージに立たせていただきますが、素晴らしいホールで演奏するのを楽しみにしています。大瀬戸千嶋の活動は“聞きやすい、親しみやすい、楽しめるステージ”がコンセプトです。会場が一つの輪になり笑顔が溢れるコンサートになれば最高です。9月15日お会いできるのを楽しみにしています。

大瀬戸千嶋 結成13周年記念コンサート「飛翔」
9月15日(日) 大ホール 14:30開演(13:30開場)
出演：大瀬戸千嶋 (Sax:大瀬戸 嵩 / El:千嶋里志) ほか